

1:16 ガリラヤ湖のほとりを通られると、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのをご覧になった。彼らは漁師であった。 1:17 イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」 1:18 すると、すぐに、彼らは網を捨て置いて従った。 1:19 また少し行かれると、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネをご覧になった。彼らも舟の中で網を繕っていた。 1:20 すぐに、イエスがお呼びになった。すると彼らは父ゼベダイを雇い人たちといっしょに舟に残して、イエスについて行った。 1:21 それから、一行はカペナウムに入った。そしてすぐに、イエスは安息日に会堂に入って教えられた。 1:22 人々は、その教えに驚いた。それはイエスが、律法学者たちのようではなく、権威ある者のように教えられたからである。 1:23 すると、すぐにまた、その会堂に汚れた霊につかれた人がいて、叫んで言った。 1:24 「ナザレの人イエス。いったい私たちに何をしようというのです。あなたは私たちを滅ぼしに来たのでしょうか。私はあなたがどなたか知っています。神の聖者です。」 1:25 イエスは彼をしかって、「黙れ。この人から出て行け」と言われた。 1:26 すると、その汚れた霊はその人をひきつけさせ、大声をあげて、その人から出て行った。 1:27 人々はみな驚いて、互いに論じ合って言った。「これはどうだ。権威のある、新しい教えではないか。汚れた霊をさえ戒められる。すると従うのだ。」 1:28 こうして、イエスの評判は、すぐに、ガリラヤ全地の至る所に広まった。 1:29 イエスは会堂を出るとすぐに、ヤコブとヨハネを連れて、シモンとアンデレの家に入られた。 1:30 ところが、シモンのしゅうとめが熱病で床に着いていたので、人々はさっそく彼女のことをイエスに知らせた。 1:31 イエスは、彼女に近寄り、その手を取って起こされた。すると熱がひき、彼女は彼らをもてなした。 1:32 夕方になった。日が沈むと、人々は病人や悪霊につかれた人をみな、イエスのもとに連れて来た。 1:33 こうして町中の者が戸口に集まって来た。 1:34 イエスは、さまざまの病気にかかっている多くの人をいやし、また多くの悪霊を追い出された。そして悪霊どもがものを言うのをお許しにならなかった。彼らがイエスをよく知っていたからである。 1:35 さて、イエスは、朝早くまだ暗いうちに起きて、寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。 1:36 シモンとその仲間、イエスを追って来て、 1:37 彼を見つけ、「みんながあなたを捜しております」と言った。 1:38 イエスは彼らに言われた。「さあ、近くの別の村里へ行こう。そこにも福音を知らせよう。わたしは、そのために出て来たのだから。」 1:39 こうしてイエスは、ガリラヤ全地にわたり、その会堂に行き、福音を告げ知らせ、悪霊を追い出された。 1:40 さて、ツァラアトに冒された人がイエスのみもとにお願いに来て、ひざまずいて言った。「お心一つで、私をきよくしていただけます。」 1:41 イエスは深くあわれみ、手を伸ばして、彼にさわって言われた。「わたしの心だ。きよくなれ。」 1:42 すると、すぐに、そのツァラアトが消えて、その人はきよくなった。 1:43 そこでイエスは、彼をきびしく戒めて、すぐに彼を立ち去らせた。 1:44 そのとき彼にこう言われた。「気をつけて、だれにも何も言わないようにしなさい。ただ行って、自分を祭司に見せなさい。そして、人々へのあかしのために、モーセが命じた物をもって、あなたのきよめの供え物をしなさい。」 1:45 ところが、彼は出て行って、この出来事をふれ回り、言い広め始めた。そのためイエスは表立って町の中に入ることができず、町はずれの寂しい所におられた。しかし、人々は、あらゆる所からイエスのもとにやって来た。

導入

先月は、マルコの福音書の序論として、イエスが旧約聖書やバプテスマのヨハネの働き、そして三位一体の神（父、子、聖霊）とつながっておられることを学びました。

また、イエスとつながり、イエスが未来にご計画しておられる罪も病も死もない世界につながるには、私たちは悔い改めて福音を信じなければならぬこともわかりました。

福音の語ることは非常に明快です。

神は私たち人間をご自身とつながるために完ぺきな形でお造りになりました。

しかし、最初の被造物であったアダムとエバの不従順により、神と人類の関係は壊れてしまいまし

た。

ローマ5：12は、アダムの不従順によって、死という罰がすべての人に与えられたと語ります。私たちはもともと、神と永遠に生きるよう作られました。ですから、死は非常に厳しい罰です。しかし、神はご自身の被造物である人間を愛され、人類の罪が赦される道を与えてくださいました。最初、それは動物の死によるものでした。人が死ぬ身代わりに動物が死ぬのです。そして後に、神はご自身の御子イエス・キリストを遣わして、たった一度ささげられるいけにえとなさいました。

御子の犠牲は自分の罪の罰のためだと受け入れるなら、私たちは赦され、天国で創造主と永遠に過ごすことができるようになります。これが、「福音」の内容です。

マルコは、イエスが「本物」であることの証明に乗り出します。

マルコは、イエスの権威について指摘することによって、イエスが本物であることを証明します。そのようにしたのは、旧約聖書に記された期待があるからです。その期待とは、神が王なる救い主を送ってくださるというものでした。その救い主は、偉大な権威を持ち、ご自身の民を永遠に治めるのです。

イザヤ書 9：6-7

9:6 ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。9:7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の【主】の熱心がこれを成し遂げる。

この預言者イザヤが語った期待を念頭に、マルコはイエスの「権威」を4つの方法で指摘します。

1. 人を召すイエスの権威（16-20節）

ユダヤ教のラビ（教師）は、人々がついてくるのを待つというのが伝統でした。一方、ここでイエスは主権者としてご自身の弟子をお選びになります。

彼らは、無学な漁師でした。

ですから、彼らは学問的な能力があるから選ばれたのではありません。彼らが選ばれたのは、自らの身をイエスに差し出したからです。

私たちの人生におけるイエスの召しは、議論したり話し合ったりするものではありません。むしろ、即時の従順を要求する命令です。

聖書が明らかにする事柄が3つあります。

1-1. イエスの召しは即刻の召しである。

先延ばしにすることはできません。チャンスがずっとあるとは限りません。

イエスが心に語られたなら、すぐに従う決心をする必要があります。

（「すると、すぐに、彼らは網を捨て置いて従った。」18節）

1-2. イエスの召しに従うと、仕事や生計を立てる手段を捨て、イエスが必要を備えてくださると信頼しなければならぬ可能性がある。（18節）

漁師たちは、安定した職業を捨て、イエスについて行きました。

イエスは、わたしについて来なさいと彼らを召されました。ですから、イエスが彼らの必要を満たされるのです。

すべての人がイエスについていくために、仕事や持ち物を捨てるように召されるわけではありません。しかし、私自身の体験から言えることは、イエスがあなたを召されたなら、あなたの必要を満たしてくださるといことです。

弟子はひとりもイエスの備えで不自由しませんでした。

現代では、イエスにフルタイムで仕える働き人の必要は、祈ってくれる人たちをとおして満たされますが、必要であればイエスは奇跡を起こしてでもご自身のしもべの必要を満たしてくださいます。神は、300万人近くもの人々のために荒野で日曜日を除く毎日マナを与えてくださいました。ですから、私たちが職業を捨てて神についていくよう召されたなら、神は私たちの必要も満たしてくださると信頼できます。

1-3. イエスの召しは、家族の絆を試す。(20節)「雇い人」とあることから、漁業を手広く営んでいたことがわかります。

イエスに仕えるように召されても、家族の理解が得られないのはつらいものです。

家族がクリスチャンでない場合もあるかもしれません。または、クリスチャンであっても、奇跡によって神が必要を備えてくださったという経験をしたことがない場合もあるでしょう。

「うちの子にはちゃんとした職に就いてほしい。」親御さんからそういう言葉を何度も聞いたことがあります。

王の王、主の主に仕えるのは、ちゃんとした職業です。同時に、この世で一番たいへんな職業でもあります。

神に召された人にとっては犠牲が伴います。その人たちは、家族のことを愛しており、家族といっしょにいたいという願いは変わらないからです。それでも、イエスのご自身がお選びになった人を召す権威をお持ちです。

2. 教える権威 (21-22節)

イエスが語られる時、権威者として語られます。

人々はイエスの教えに驚きました。そして心を掴まれました。

イエスの教えは他の教師や徳の高い人とは何か違っていました。

イエスは今も、ご自身のみことばである聖書をとおして語られます。また、聖書を解き明かすイエスのしもべたちをとおして語られます。

22節で、イエスの教えは「神の知恵」によるものであることが明らかにされています。人の知恵や力によるものではなかったのです。

私たちがイエスを信じる信徒であるなら、私たちの人生におけるイエスの言葉の権威を認めなければなりません。

コリント第二6：11-7：1は、私たちに呼びかけます。

コリント第二6：11-7：1

6:11 コリントの人たち。私たちはあなたがたに包み隠すことなく話しました。私たちの心は広く開かれています。 6:12 あなたがたは、私たちの中で制約を受けているのではなく、自分の心で自分を窮屈にしているのです。 6:13 私は自分の子どもに対するように言います。それに報いて、あなたがたのほうでも心を広くしてください。 6:14 不信者と、つり合わぬくびきをいっしょにつけてはいけません。正義と不法とに、どんなつながりがあるでしょう。光と暗やみとに、どんな交わりがあるでしょう。 6:15 キリストとベリアルとに、何の調和があるでしょう。信者と不信者とに、何かかわりがあるでしょう。 6:16 神の宮と偶像とに、何の一致があるでしょう。私たちは生ける神の宮なのです。神はこう言われました。「わたしは彼らの間に住み、また歩む。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。 6:17 それゆえ、彼らの中から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。汚れたものに触れないようにせよ。そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れ、 6:18 わたしはあなたがたの父となり、あなたがたはわたしの息子、娘となる、と全能の主が言われる。」 7:1 愛する者たち。私たちはこのような約束を与えられているのですから、いっさいの靈肉の汚れから自分をきよめ、神を恐れかしこんで聖きを全うしようではありませんか。

この20年余りの間に、私はあらゆる人の相談に乗ってきました。中には、14節のみことばに従わなかったせいでビジネスや人間関係において非常に困難な状況に陥ってしまった人たちもいます。その人たちは、イエスのことばの権威を自らの人生に望まなかったのです。私たちは、いつかクリスチャンになってくれるという期待を持ってノンクリスチャンと恋愛すべきではありません。また、ビジネスパートナーなどあらゆるパートナー関係をノンクリスチャンと結んではいけません。これは非常に重要なことです。

今週イエスが語られる言葉に私たちが心を開くことができますように。

3. 悪霊に対する権威 (23-28節)

この個所で、イエスは悪霊と対決されます。そして、すぐさま勝利なさいます。悪霊がイエスの正体を認識しているのは興味深い事実です。

現在の世の中には、多くの悪がはびこっています。私はそれが本当かどうか知りませんが、世界中のどの国よりも多くの悪霊が日本にはいると言う宣教師もいます。

悪霊にとりつかれた人がたくさんいるのは確かです。イエスはここで、悪魔とその手下に対しても権威を持っておられることを示されました。聖書は、悪魔を殺人者と呼びます。そして、ヒトラーなどのような人が悪霊に取りつかれていたのは明らかです。偉大なリバイバルが起こって聖霊が力強く働かれると、多くの人々が悪霊から解放されます。ズルー族のいる南アフリカでリバイバルが起こった時は、リバイバルのために神に用いられていた伝道者のもとへ、魔術師や悪霊にとりつかれた人たちが押し寄せました。伝道者が、父と子と聖霊の御名によってその人から去るよう悪霊に命じると、強い抵抗がありましたが、必ず悪霊は去りました。
(カート・コッホ著「ズルーの地のリバイバル」132ページから引用)

4. 病に対する権威 (29-31節、32-34節)

この個所には、個人的になされた奇跡が記されています。その後には、公の場で多くの奇跡がなされています。癒された人々にとって、これはすばらしい出来事でした。しかし、38節でイエスは、ご自身が来られた目的はこれではないとおっしゃいます。

1:38 イエスは彼らに言われた。「さあ、近くの別の村里へ行こう。そこにも福音を知らせよう。わたしは、そのために出て来たのだから。」

イエスは、福音を知らせるために来られたのです。イエスが人々を癒されたのは、あわれみを示すためであり、ご自身の神性を指し示すためでした。また、罪や人類の堕落にも打ち勝たれることを知らせるためでした。

天国に行くまで、こちらの世界では、病気や死は必ず私たちにつきまといまいます。イエスは、人々がご自身の教えの副産物だけを目当てについてくることを望まれませんでした。イエスが望まれたのは、人々が福音のメッセージに耳を傾けることです。イエスに体を癒していただいても、地獄で永遠を過ごすことになる可能性はあります。イエスはそのことをご存じでした。多くの人々は、この世で今、理想的な生活を送ることを望みます。死ぬのもいや、病気になるのもいや、年を取るのもいや、というわけです。

ところが、イエスは理想的な生活を天国での後の人生にとっておかれるのです。この世の人生がすべてではありません。この世はただの通過地点です。ヤコブ4:14は、「…あなたがたは、しばらくの間現れて、それから消えてしまう霧にすぎません。」と語ります。

体が健康かどうかは問題ではありません。問題は、霊的に健全かどうかです。

天国にたどり着く方法はただひとつです。それは、福音のメッセージを「信じて悔い改めること」だとイエスはおっしゃいます。

32-34節で、イエスは病人をあわれんで公衆の場で人々を癒されました。しかし、イエスがおもに気にかけておられたのはただひとつのことです。38節でイエスは、福音を知らせるために来たとおっしゃいました。病人を癒すためではありません。体の癒しは一時的なものですが、救いによってたましいを癒すなら、それは永遠の癒しです。天国では、病気も衰えもない死ぬことのない体が約束されています。

40-44節でイエスはツァラトに冒された人を癒されます。しかし、イエスは44節で、そのことを誰にも言わないようにとおっしゃいました。ただ、重い皮膚病患者についての律法があるので、祭司に見せなさいとおっしゃいました。（レビ14:1-32）

イエスは、癒しの働きをしているのではないことを明確にされました。イエスの働きは、福音を知らせることでした。イエスが人々の病を癒されたのは、あわれみによることであり、またご自身が人の姿をした神であることを示すためでした。イエスの使命は、多くの人々が期待するものとは違いました。イエスが気にかけておられたのは、たましいの救いです。

今朝、私たちはイエスの権威について学びました。イエスに仕えるよう人々を召す権威をイエスはお持ちです。

またイエスの教えには権威があります。聖書はその権威です。ですから、私たちはこれに従わなければなりません。

イエスは、病に対する権威をお持ちです。そして、みこころならば、あわれみによって病人を癒すことができになります。しかし、それはイエスがこの世に来られた目的ではありません。

適用

イエスの権威はあなたの人生に及んでいますか。

私たちの生活のどの部分で、イエスはまだ権威を行使されていないでしょうか。イエスに、「今日からその部分でもあなたの権威を受け入れます」と言う心の準備はできていますか。もしそうなら、その決意をイエスによって試されることになりますから、覚悟してください。あなたはなぜキリスト教に興味があるのでしょうか。この世の人生で得をしたいからですか。それとも、罪赦されて、天国の永遠の家に行くためですか。

私たちは、これらの質問に正直に答える必要があります。今日の聖餐式は、なぜイエスがこの世に来られたのかを覚えましょう。イエスが来られたのは、私たちの罪の罰を負って死なれるためです。自らの罪に気づき、悔い改め、イエスの赦しを受け入れて初めて、私たちはその恩恵を受けることになります。

あなたは今日、そうしようと思えますか。

